

第36号

会報



社団法人
千葉県公害防止管理者協議会

目 次

*年頭あいさつ.....	1
会長 神 藤 賢	
*年頭あいさつ.....	2
千葉県知事 沼 田 武	
*隨 想.....	3
千葉県環境部次長 甘 利 敏 夫	
*協議会活動について.....	5
*地域部会活動について.....	5
*リレー訪問	
富士ディーゼル(株)館山製作所を訪ねて	6
*行政動向	
化学的酸素要求量についての総量規制基準に係る総理府令 等の改正について	9
*房総の歴史	
初詣では、おすみですか？	12
事務局 菅 谷 政 春	
*技術紹介	
昭和60年度千葉県公害研究所調査報告書一覧	14
昭和60年度千葉県公害研究所学会発表及び研究論文一覧 ..	15

年頭あいさつ



会長 神藤 賢
住友化学工業㈱ 千葉工場副工場長

昭和62年の年頭にあたり、会員の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、当協議会の運営にあたり、県ご当局のご指導と会員皆様方の多大なご支援をいただき、順調に事業活動を推進することができましたことを、心からお礼申し上げます。

なかでも、昨年の事業活動の命題でありました“各種専門委員会の定着化”“健全な事業運営のための会費の改定”等につきまして、会員皆様方の深いご理解とご協力のもとに、計画どおり推進させていただきましたことについて、ここに改めて心からお礼申しあげる次第であります。

さて、昨年のわが国の経済は、一昨年後半からの急激な円高進行の影響を受けて、輸出価格の低下や、製造業を中心とした設備投資の減少化、さらには雇用問題が発生するなど、産業全体が非常に揺れ動いた年がありました。今年の経済環境につきましても、円高状態の継続とともに、円高の定着による貿易環境の変化、輸入関税の撤廃の本格化、さらには金融の自由化などにより、国際化がより進展するとともに、貿易摩擦問題解消のために内需主導型の産業構造に転換していくことを強く求められるなど、まさに「変革の時代」に突入していくものと思われます。

また千葉県におかれては、「2000年の千葉県」という長期構想に基づき、昨年より東京湾横断道路、千葉新産業三角構想、高速道路網整備など「活力と希望に満ちた均衡ある発展」を目指して、着々と新しい事業展開がスタートされております。しかも、これら県の大型プロジェクトに「JV方式」導入という、新しい展開と変革が図られるなど、身近な職域圏においても、変革の時代の始まりを痛感いたします。

一方、生活の高度化、多様化により、一層の快適さを求める社会的要請は、年々増大の一途を辿っております。このような情勢の中にあって、公害防止管理者としての私達は、生活環境、自然環境の保全を最重点課題として、日々努力することはもとより、環境汚染の未然防止、快適な環境を創造するという目標を実現するため、公害防止管理者としての自覚と責任を新らためにしながら、効果的な活動を展開していかなければならないと思います。

当協議会も設立以来着実に発展を遂げてまいりましたが、本年はさらに活動を充実させて、豊かで暮らしそうい環境づくりに向けて努力する所存であります。

本年も、県環境部の倍旧のご指導と、会員皆様方のなお一層のご支援をお願い致しまして、新年のご挨拶と致します。



年頭あいさつ

千葉県知事 沼 田 武

新年明けましておめでとうございます。

社団法人千葉県公害防止管理者協議会の皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのこととおよろこび申し上げます。

今年は、「ふるさと千葉5か年計画」がスタートして2年目にあたる重要な年であり、いま年頭にあたり、さらに身をひきしめて県勢の発展にまい進する気持を新たにしております。

昨今の経済情勢は、かつてない為替レートの変動を見せるなど、ますます流動的な側面を強めてまいりました。この円高傾向の中で、県経済も先行き楽観を許さない状況にあり県の財政運営にもより弾力的な対応が迫られております。

きびしい情勢ではありますが、520万県民の皆様のご協力のもとに活力ある県政を展開してまいりたいと存じます。

さて、長年の懸案であった東京湾横断道路は、昨年建設主体となる「東京湾横断道路株式会社」が設立されるなど、着工に向けて急速に展開してまいりました。21世紀の房総半島をひらき、また、東京湾時代をリードする重要なプロジェクトであり、環境面での十分な配慮をしながら建設の促進をはかってまいります。

また、千葉新産業三角構想の一翼を担う幕張新都心の中核施設「幕張メッセ」は、64年オーブンに向けて今年いよいよ建設に着手します。

いま現実的な植音の聞える、これらのプロジェクトは、将来の千葉県の発展の基礎となるものであり、極めて重要な意味をもっております。

これらの事業を推進し、今後の千葉県づくりを進めるうえで、房総の貴重な自然への配慮や快適な環境づくりなど、環境対策も大切であります。

そこで、昨年長期的視野に立った「ふるさと千葉環境プラン」を策定いたしましたが、この環境プランを普及啓発し、今後の環境行政に生かしてまいります。

また、一昨年国の指定湖沼となった印旛沼、手賀沼の水質浄化対策が緊急の問題となっており、今年は、この水質保全計画がまとまるこことなっており、浄化のための対策を急いでいくことにします。

長期ビジョン「2000年の千葉県」に基づく「ふるさと千葉5か年計画」は、まだその緒についたばかりとも言えますが、次の世代へ胸を張って引き継ぐことのできる郷土千葉県づくりのために、県政の各分野にわたり新しい意気込みで取り組んでまいります。

社会も経済もいま激しく変ろうとしています。その中でダイナミックに動き出した千葉県の姿をしっかりととらえ、飛躍の第1歩を踏み出してまいりたいと念願するものでございますので、県政に対する貴協議会の会員の皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

おわりに、貴協議会のご発展と会員の皆様方のますますのご活躍を祈念いたしまして、年頭のごあいさつといたします。

隨 想



恵み多き豊かな環境を求めて

千葉県環境部次長

甘 利 敏 夫

「日本は、今、画一的な大量生産の時代に終わりを告げようとしている。重厚長大産業から軽薄短小産業への移行や、外需依存から内需拡大への転換は、そうした時代の変化を象徴している。国鉄改革も多様で、高品質のもの（サービス）が求められる時代にふさわしい組織にするのが狙いである。」これは、国鉄の分割・民営化に関する法案が成立した時に、新聞に出た国鉄再建監理委員会のある委員の談話の一部であるが、この話は、今後の環境問題を考えるうえでも参考になるのではないかと思う。

ところで、本県の環境は、関係者の努力と技術の進歩により、従来型の公害は全般的に改善されてきた。近年では、汚染の発生地域も集中から分散化し、発生源や汚染地域も多様化が見られ、産業型から都市型・生活型のものへと変化を示してきた。

今日的な課題は、一つは生活雑排水や自動車排ガスなどによる公害である。これは個々人が被害者であると同時に加害者でもあるという問題である。また近隣騒音などのトラブルも引き続き多い。新たな課題としては、未規制の化学物質による環境汚染の心配や、産業廃棄物処理の問題などが出てきている。さらに県民意識も多様化し、公害防止に留まらず、都市緑化、歴史的文化的環境の保存、自然景観の保全、親水性の向上など「快適な環境づくり」を求める声が高まってきている。

これらの複雑多様化した諸情勢に対応していくには、より幅の広い視点からの環境情報の把握や分析評価などが重要であり、また将来の目標や指針を明らかにして、計画的に木目細かく対策を進めていくことが望まれている。県では、長期ビジョン「2000年の千葉県」を環境面から推進していくために、「ふるさと千葉環境プラン」を策定したところである。この計画は、環境面における配慮すべきガイドラインを明らかにするとともに、より良い環境創造のための指針となるものである。関係者の積極的な活用を望みたい。

環境庁においても、昨年12月には、21世紀を展望した環境行政の指針として「環境保全長期構想」を発表した。この中で、人間と環境のかかわりは今後より複雑化するものと見通し、自然環境はもとより人工的な環境も含めて、環境を総体的にとらえ、公害防止と自然保護ができるだけ有機的に結びつけようとしている。そして「環境への配慮」、「環境とのふれあい」、「環境の恵み」の三つの面から快適環境の創造を推進していくことを提言している。公害行政から環境行政への転換を明確に位置付けたものとして評価できよう。

もとより、環境資源は有限であり、かけがえのないものである。従って、その利用は、自然の生態系など環境特性に十分配慮しながら進め、県民生活を送るうえで誰もが環境の恵みを享受できるように、公害がなく快適な環境づくりを進めていかなければならない。県としても、

今後環境情報のシステム化などをさらに進め、新たに総合的な研究機関として「環境センター(仮称)」を上総新研究開発都市に建設する構想をもっている次第である。

望ましい環境づくりは、容易に実現し得るものではない。その取り組みは、単に行政のみでは不十分なことで、行政、事業者、県民一人一人が、それぞれの立場でできることを進めていくというような多角的な取り組みと、各者の連携の強化が何よりも大切であろう。首都圏の中でも豊かな房総の自然を守り、他に誇りをもてる「ふるさと千葉」の環境づくりを進めていくうえで、考えていかなければならない課題は数多く残されており、関係者のたゆまぬ努力の積み重ねを期待したい。

第三回

千葉市は、千葉港を中心とした工業都市として、1960年代後半から急速に人口が増加した。一方で、農地の減少や水害による土砂災害、河川改修による河川生態系の破壊、海岸侵食による海岸線の後退など、自然環境に対する影響も深刻化した。また、過度の開発によって、自然環境が破壊され、生物多様性が減少する傾向が見られた。そこで、千葉市は、環境問題に対する意識を高め、自然環境の保護と再生を目指す取り組みを始めた。その一つとして、千葉市は、環境教育プログラムを実施し、市民に環境問題に対する理解を深めてもらうことを目표とした。また、千葉市は、環境問題に対する意識を高めるため、環境教育プログラムを実施し、市民に環境問題に対する理解を深めてもらうことを目標とした。この取り組みは、千葉市が環境問題に対する意識を高め、自然環境の保護と再生を目指す取り組みとして、多くの市民に支持された。一方で、過度の開発によって、自然環境が破壊され、生物多様性が減少する傾向が見られた。そこで、千葉市は、環境問題に対する意識を高め、自然環境の保護と再生を目指す取り組みを始めた。その一つとして、千葉市は、環境教育プログラムを実施し、市民に環境問題に対する理解を深めてもらうことを目標とした。この取り組みは、千葉市が環境問題に対する意識を高め、自然環境の保護と再生を目指す取り組みとして、多くの市民に支持された。



協議会活動について

昭和61年下期（1月～3月）事業計画

	事 業	会 務
1月	●21日 第19回環境問題説明会（於 自治会館）	●20日 専門委員会（於自治会館） ●21日 第4回部会連絡会（於 自治会館）
2月	○17日 廃棄物関係管理者研修会 （於 自治会館） ○24日 騒音・振動・悪臭第一線技術者研修会 （於 自治会館）	
3月	○上旬 公害防止管理者等有資格者登録	○上旬 第5回部会連絡会（於 自治会館） ○下旬 第2回理事会（於 自治会館）

地域部会活動について

開催状況報告（9月～11月）

部会名	開催日	場 所	出席 者	概 要
市原部会	10. 3 4	東京電力(株)	21社（22名） 市原市環境保全課 2名	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 情報交換 3. 工場見学－東京電力(株)横須賀火力発電所
千葉部会	10. 27	ニッカウヰスキー(株) キッコーマン(株)	15社（20名） 千葉市環境部 3名	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 工場見学－ニッカウヰスキー(株)柏工場、キッコーマン(株)野田工場
市川部会	10. 28	日産自動車(株)	12社（14名）	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 工場見学－日産自動車(株)栃木工場
習志野 八千代 部会	10. 16	日立製作所	18社（19名） 八千代市環境衛生部 2名 習志野市公害センター 2名	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 八千代市環境行政動向 3. 習志野市環境行政動向 4. 工場見学－日立製作所習志野工場
船橋工場	10. 31	大洋製鋼(株)	18社（23名） 船橋市環境部 3名 経済部 2名	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 専門委員会報告 3. 次期幹事選出 4. 船橋市環境行政動向 5. 工場見学－大洋製鋼(株)船橋製造所
印旛 香取 部会	7. 14	藤倉電線(株)	12社（13名）	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 次期幹事選出 3. 情報交換 4. 工場見学－藤倉電線(株)佐倉工場
海匝 山武 部会	11. 6	ヤマサ醤油(株)	9社（14名） 県環境部生活環境課	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 専門委員会報告 3. 情報交換 4. 講演会（県環境生活環境課）
長生 夷隅 部会	11. 7	日立製作所 波月荘	8社（10名） 県環境部水質保全課	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 情報交換 3. 講演会（県環境部水質保全課）
松戸部会	10. 7	松戸商工会議所	8社（11名） 松戸市環境対策委員会 メンバー 7名 松戸商工会議所 3名	1. 昭和61年度第2回部会連絡会報告 2. 専門委員会報告 3. 情報交換

リレー訪問

第19回目のリレー訪問は、安房部会の富士ディーゼル館山製作所にお願いいたしました。
(編集委員会)

富士ディーゼル(株)館山製作所を訪ねて

富士ディーゼル館山製作所製造部長
聞き手……協議会事務局 主 事

松浦 正継氏
飯田 容子
(以下 敬称略)



千葉から国鉄内房線特急で約1時間半、館山に到着。館山駅から、その内房線を1.5kmほど戻った海岸に近いところに工場はあります。

工場に入ると、最近造られたであろう新しい建屋に混って、昭和17年に造られたという木造の大きな建屋の中で、工作機械に向ってキビキビと立ち働く作業員の人達を目にします。

建屋は全て、奥が深く長い。高い天井から巨大な走行クレーンが、いったい何十トンの重量なのか、鋼鉄の塊といった大型のエンジンをワイヤーで引っぱり上げています。その巨大なクレーンを軽々と操作している作業員は、肩からリモコンの装置をぶらさげているだけのようです。

工場内の空間は重量感にあふれていて、女の私には、なにか場違いのところへ来てしまったというような感じがします。自動車のエンジンを想像してきた私には、そのスケールの大きさにただ驚くばかりでした。

飯田 それでは、恐縮ですが、工場の沿革からお話しいただけますか。

松浦 明治22年、東京港区芝に鶴池貝鉄工所として創業を開始したんですが、日本のディーゼルエンジンを最初に造ったのは、池貝鉄工所とか新潟鉄工所とかいったところなんです。御存じのように日本は昭和の始め頃から軍国への道を歩むわけですが、ここも昭和17年、当時の海務院の指示によって海軍の船用ディーゼル機関の専門工場として軍の管理のものに建設されました。

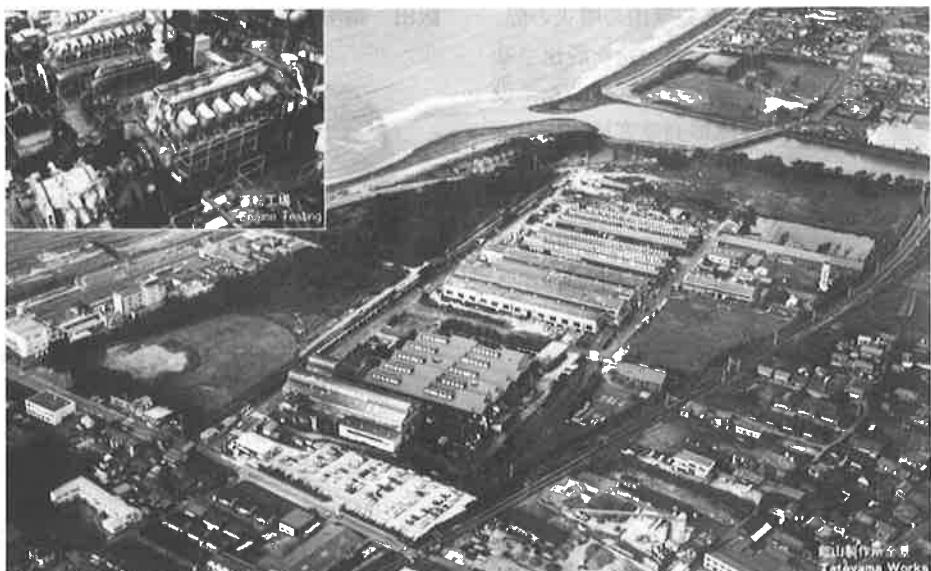
なぜ、館山に工場が建てられたかと申しますと、戦争が激しくなるにしたがっ

て東京よりもここの方が安全だろうということからなんです。ですから、そういった理由で、私どもではここを疎開工場と呼んでいるんですよ。

御覧になったでしょう、木造の建屋。あれは、当時建てられまして、そのまま残っているものなんです。

戦争が終わり、昭和24年館山工場は企業再建整備法の決定計画によって鶴池貝館山製作所として独立しました。

飯田 そういたしますと、最初は船用ディーゼルを専門に造る工場として出発したわけですね。



松浦 そうです。ですが、それも昭和28年に船用ディーゼルだけではなく、陸用の発電用ディーゼルも造っていこうと富士電機㈱と資本、技術、販売の各面にわたって業務提携を行い、同時に商号も鶴館山製作所と改称しました。

私どもが今の名前になったのは、昭和31年からです。

その後は、昭和39年にフランスのS・E・M・T社と業務提携し、中速の大型エンジンを造るようになります。昭和42年には機関納入実績で100万馬力を達

成。更には、昭和43年にS・E・M・T社の親会社アトランティック造船所と技術援助契約を締結し、高速で小型のエンジンを造るようになりました。昭和48年には鶴新潟鉄工所との業務提携を行っています。もっとも、鶴新潟鉄工所とは、昭和59年に日本鋼管㈱の経営傘下に入るにあたって、業務提携を解約いたしておりますが……。

現在では、機関納入馬力500万馬力を達成、製造からアフターサービスまで巾広い活動を行っております。

飯田 現在は、どういったものを製造しているんですか。

松浦 私どもでは、300人以上の従業員がいてひとつのものを造るのに、だいたい3か月か4か月ぐらいかかるんですが、今は主に舶用ディーゼルエンジン、発電機用ディーゼルエンジン、ガスディーゼルエンジンを製造いたしております。

その他にも最近では、エンジンの故障を早期に発見することのできる「エンジン総合監視装置」の製造、販売も行っています。

飯田 エンジンはどんなところで活躍しているんですか。

松浦 例えば、最近ですと三原山の噴火の際、大島の人達を脱出させるときに活躍した半潜水形高速客船「シーガル」とか……、これは4,000馬力のエンジンを2機搭載しています、1m以上の波があっても比較的揺れの少ない安定した船なんです。

その他にも、海上保安庁の巡視船とか、海洋調査船、フェリーボート、貨物船、タンカー、漁船等、あらゆる船舶用エンジンに使われています。

また、陸用では万が一のときのビル非常用電源、上・下水道の非常用とかポンプ用の電源、その他、工場用、電力会社用の電源等に使われています。

飯田 海外でも活躍されているんでしょうね。

松浦 パンフレットを見ていただくと判るんですが、インドでは工場の常用電源として3,000~4,000馬力のものが、この4年間で120台ぐらい運転されています。

また、アルジェリアの砂漠の中に、パワーユニットと呼んでいるんですが、ラジエーターなども全てスッポリと囲って、据え付けから一週間ぐらいで稼働が可能なようなものもあります。

飯田 砂漠の中では、かなり過酷な条件と言えるのでしょうが、気密性とか、色々と御苦労がおありなのでしょうね。

松浦 日本でも、例えば風の強い日などはサッシの隙間から細かい砂が家の中に入ってしまうことがありますけど、アルジェリアの砂漠の砂といったら、それはパウダーのように細かい粒子をしていますから、非常に厳しい条件下の中と言えますね。

ほかにも、Dual Fuel Engine正在りますが、例えば、天然ガスの豊かなオーストラリアなどで、ガスと重油が二重に使用できるエンジンが活躍しています。

飯田 環境対策面では、どういったことに気を配っているんですか。

松浦 私どもでは、エンジンの素材（铸物）から加工、組立、試運転、発送、据付、引き渡し運転まで、一貫して行なっていますから、トラブルが発生しないよう、粉じん対策にしても、騒音・振動対策にしても、また、水質対策にしても万全を期しています。

特に夏季のエンジン試運転で、夜間まで行うときは、騒音等で近所迷惑にならないように細心の注意をはらっています。

飯田 館山は観光や漁業を中心の街ですから、観光客の多い夏の間は特に大変なのですね。

本日は、お忙しい中どうもありがとうございました。

行政動向

化学的酸素要求量についての 総量規制基準に係る總理府令等の 改正について

水質汚濁防止法施行規則の一部を改正する總理府令（昭和61年總理府令第67号）及び化学的酸素要求量についての総量規制基準に係る業種その他の区分等を定める件（昭和61年環境庁告示第46号）が、昭和61年12月10日に公布され、同日から施行されることとなったので、改正の趣旨、改正による強化状況及び中央公害対策審議会の答申について記述する。

この改正の趣旨は、次期水質総量規制を実施するため「水質の総量規制に係る総量規制基準の設定方法の改定について」の昭和61年10月29日付け中央公害対策審議会答申を踏まえ、水質汚濁防止法施行規則（昭和46年總理府、通商産業省令第2号）第1条の5第2項に規定する総量規制基準の算定方法に係る算式を改正し、新たにC_j及びQ_jに係る項を設けるとともに、C、C_o、C_i及びC_jの値に係る業種等の区分及びその区分ごとの範囲（ガイドライン）を新たに示したものである。

この改正の強化状況は、既設に係るC値についてみると、282業種区分のうち下限値は87業種等区分（全体の31%）、上限値は134業種等区分（48%）について引き下げられており、引き下げ幅は、平均では下限値で11%（6mg/l）、上限値で13%（15mg/l）となる内容となっている。

その具体的な数値については、水質汚濁防止法施行規則の一部を改正する總理府令（昭和61年總理府令第67号）については、昭和61年12月10日付け官報第17947号を、化学的酸素要求量については、昭和61年12月10日付け官報号外第154号を参照していただきたい。

次に、「水質（COD）の総量規制に係る総量規制基準の設定方法の改定について」の中央公害対策審議会の答申は、これまでの水質の総量規制で実施してきた対策等についてレビューを行ったうえで、今後の総量規制に当たっての基本的考え方を示し、その考えに基づき改定の方法が示されている。

以下に中央公害対策審議会の答申内容（概要）を示すこととする。

水質の総量規制に係る総量規制基準の設定方法の改定についての

中央公害対策審議会の答申の概要

1. これまでに実施してきた対策等について

- ① CODの発生負荷量は、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海の3海域とも着実に減少しており、各々の分野で汚濁負荷量の削減に向けての努力が認められる。
- ② 3海域の中には、環境濃度の改善がみられ、また一時期に比べ、赤潮の減少、漁業被害の減少、漁介類の増加等がみられる水域がある。

しかしながら、東京湾、伊勢湾、大阪湾等においては、依然として環境濃度の高い水域があり、現状のままでは環境基準の達成はなお困難な状況にある。また、青潮や赤潮の発

生による魚介類のへい死などの現象も生じている。

- ③ 閉鎖性海域における水質汚濁のメカニズムに関しては、かなり解明されてきたものの、流入栄養塩類の削減と内部生産CODの抑制の定量的効果との関連等については未解明な点も残されている。

2. 今後の総量規制に当っての基本的考え方

- ① これまで実施してきた対策等のレビューを踏まえ、今後とも各分野において改善努力を継続し、水質の一層の改善を図り、望ましい環境に近づけていく努力が必要であり、このような観点から流入CODの削減対策を継続することが適切である。
- ② 次期総量規制における削減目標は、人口、産業の動向、その他の自然的・社会的条件を基礎とし、発生源別の汚濁負荷量の削減のために採られた措置を考慮し、排水処理技術の水準、下水道の整備の見通し等を勘案して実施可能な限度における対策努力を前提に設定し、バランスのとれた削減努力を求めるために留意して、各種の施策を総合的に講ずるべきである。
- ③ 生活系汚濁源の割合が増加していることから、下水道の整備等生活排水対策の一層の推進に努めるべきである。
- ④ 総量規制基準は特に対策の遅れているものに対する対策の推進を図るために留意して見直すこととし、全体として公平性が確保されるように努めるべきである。
- ⑤ 次期総量規制の諸対策の実施と併せて、なお更に科学的解明を要すると考えられる部分については、今後一層の知見の蓄積に努め、より合理的、総合的な海域の環境保全施策について明らかにするように努める必要がある。

3. 総量規制基準の設定方法の改定について

昭和64年度を目標年度とする次期総量規制において適用する総量規制基準のもととなるC値の範囲の改定を行う。

- (1) 総量規制基準の算式は基本的には従来どおりとする。

$$L = C \cdot Q \times 10^{-3}$$

L : 排出が許容される汚濁負荷量 = 総量規制基準 (kg/日)

C : 1リットル当たりのCODの量 (mg/l)

Cの値は、業種等に応じて環境庁長官が定めた範囲の中で都府県知事が決定する。

Q : 排出水の量 (m³/日)

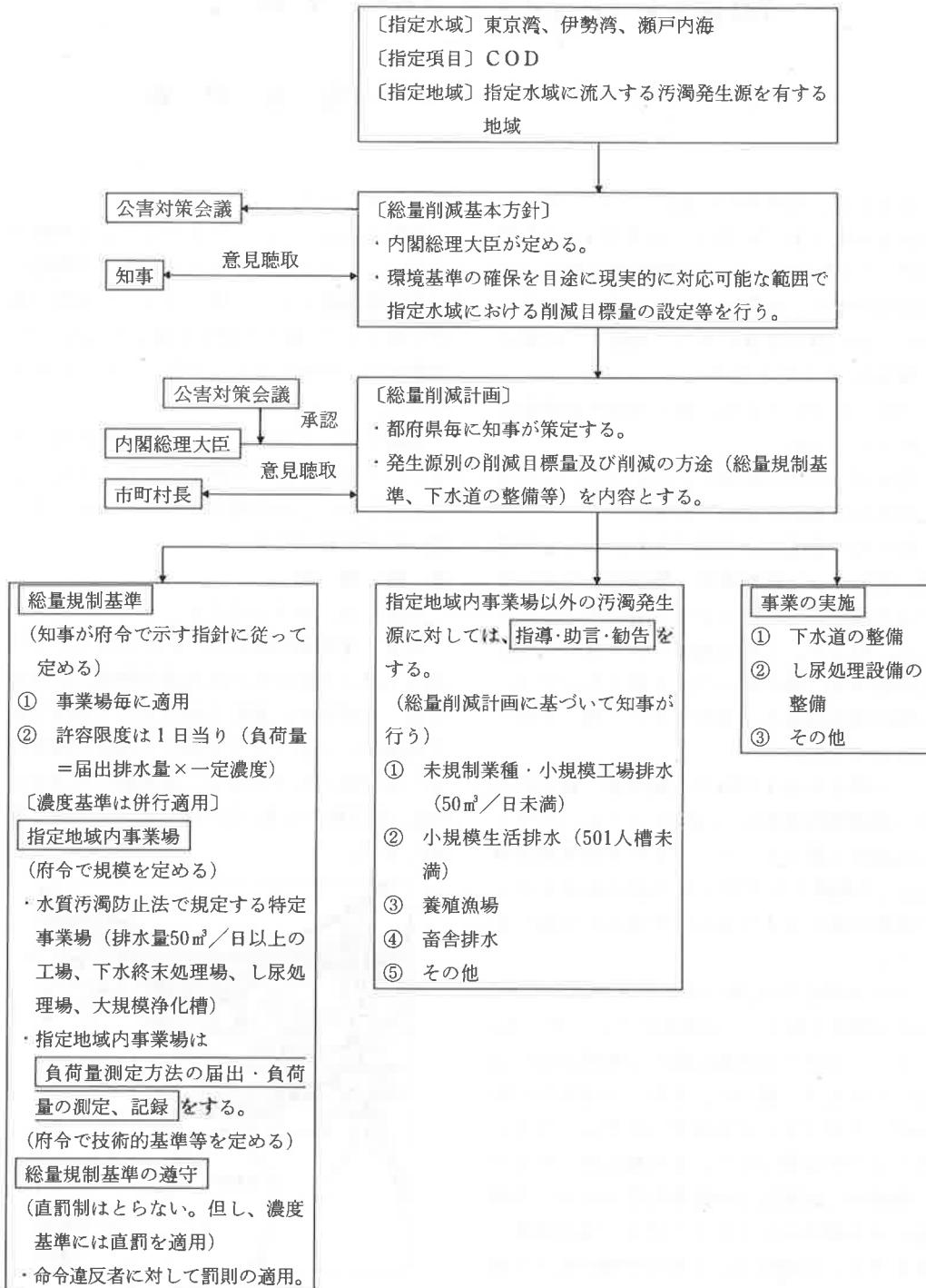
なお、既設事業場の係るC値、第1期総量規制期間内に新設された事業場に係るC値及び今後新設される事業場に係るC値を区分することとしている。

- (2) C値の範囲は、業種等の実態、排水処理技術の水準の動向、汚濁負荷量の削減のために採られた措置等を勘案し、改定を行う。

なお、水質の総量規制にかかる県の今後の予定としては、国（内閣総理大臣）が示す次期総量削減基本方針に基づき、知事が総量削減計画の策定を行い、同計画に基づき、新しいC値の範囲の中から、新C値の設定を行い公示することとしている。

〈参考〉

水質総量規制制度の仕組み



房総の歴史

初詣では、おすみですか？

事務局 菅 谷 政 春

日本には、八百万といわれるくらい多くの神さまが祀られているといいますが、『古事記』や『日本書紀』などに登場する神々、民間信仰の神々、古代中国やインドなどから伝来してきた神々を合わせると実際、その数は1,000以上になります。

では、なぜこのように多くの神々が存在するのでしょうか。

それは、古代の信仰がどのようにしてできてきたかを見ればわかります。

私たちの祖先は、人間が生まれることや地震、雷といった自然現象、農作物がなぜ生育するのかといったことを不思議に思っていました。そして、これら理解のおよばぬ天地自然の恵みを「神のおかげ」と信じたのです。人間の力の及ばないもの全てに「神」を見い出したのです。

この神さまを江戸時代の儒学者・新井白石は、語源的な意味から「神」は「上」なりとした説を主張しましたし、また本居宣長は神とは、「尋常ならずすぐれて徳のあるもの」で畏敬を感じるようなものであると定義しました。

つまり神道では、神さまは森羅万象に宿り、それに感謝し敬うことが信仰だというのです。

よく「日本人は宗教に関して節操がない。」といわれます。確かに、元旦には初詣でに出かけ、七五三などのお宮参りをする一方で、クリスマスを祝ったり、また故人をしのんで一周忌や三回忌などの法事を行ったり、お彼岸にはお墓参りをしたりします。家中を見ますと、仏壇がおいてあり神棚が祀ってあ

ったりもします。

欧米人にとって、このようなことは理解できないことでしょう。キリスト教は学問的には神人懸隔教といい、神（ゴッド）を唯一絶対の神として、他の何者をも信じてはならず、偶像を作つて拝んでもいけないとしているからです。

神道では、人が生まれるのも、稻が実るもの、それぞれの神々の産靈の力によるものと考えますから、その考え方には非常に大きな違いがあるわけです。

香取神宮

初詣では、おすみですか。

例年、年間約200万人、正月3が日だけで35万人以上の参拝客がある香取神宮（国鉄成田線・佐原駅から香取神宮行きバス15分）は、下総国の一ノ宮として古代から対岸の鹿島神宮と並び称される大社で、香取駅の西南約1.8km、佐原駅から東へ3.5kmの亀甲山の森に鎮座します。



深い杉木立に囲まれた桜並木の参道を歩くと総門、そして朱の楼門をくぐると奥に拝殿、本殿の威容が目に入ります。本殿は正面柱間の流れ造りに後庇を加えた両流れ造りの形式です。

もともとは、藤原一族の氏神として、藤原氏の祖先が東国を開拓した際に、この地に神宮を建てたといわれています。この辺は昔、香取海、安是海といった内海が切れ込む水辺の要衝で、齊明天皇の御代に蝦夷征討が始まると大和勢力の北方攻略の前線基地として重要視され、藤原一族のみならず、朝廷や武将の崇敬をも受けるようになりました。

普通、神社の呼び方を「社号」といいますが、その中で神宮号と呼ばれているものは、国家管理されていた昭和20年以前では17社しかありませんでした。神宮号は、官幣大社の中で日向三代の皇祖（香取神宮・鹿島神宮）や皇徳が顯著だった歴代の天皇を奉祀している神社（桓武天皇、孝明天皇を奉祀する平安神宮・明治天皇を奉祀する明治神宮）、あるいは由緒正しい神社で古来、神宮と称する慣例のある神社となっています。

香取神宮の祭神は、経津主命（別名伊波比主命、イワヒヌミコト）、斎主命（別名建布津神、タケフツノカミ）、瓊杵命（別名豊布津神、トヨブツノガミ）が祀られています。

これは両方とも例の天孫迹迹芸命の降臨に先立って、天照大御神の命令を受けて、大和朝廷側の代表として出雲に行き、大国主神と国譲りの交渉を行った軍神で、どうも鉄器の製造に關係した氏族の代表らしい。

両神の名前には「ツツ」の音がついていますが、これは刀が物を切るときの「ツツ」という音に由来するといわれています。更に両神の神靈が剣に宿っているため古来、武道の神として武家に崇敬され現代に至っています。

また、境内にある宝物殿には、国宝の海獸葡萄鏡（面經29.5cm）もあります。これは正倉院御物と同型同寸で、唐代に作られた円形白銅製の名鏡です。

北総の大社、香取神宮。年の始めに一度参拝されてみてはいかがでしょうか。



紹 介

昭和60年度千葉県公害研究所調査報告書一覧

年次	報 告 書 名	発行主体	参画形体	備 考
60	光化学スモッグによる植物影響調査報告書	関東地方公害対策推進本部大気汚染部会、一都三県公害防止協議会	共同研究	大気第一研究室
	大気汚染植物影響評価調査報告書（N）	千葉県環境部	共同調査	大気第一研究室
	農作物大気汚染基本調査実績書	千葉県農林部	共同調査	大気第一研究室
	昭和58-59年度南関東浮遊粒子状物質合同調査結果報告書	一都三県公害防止協議会	共同調査	水上雅義、依田彦太郎
	昭和59年度特定有害物質等調査結果報告書	千葉県環境部	共同調査	大気第三研究室
	昭和58年度湿性大気汚染調査報告書	関東地方公害対策推進本部大気汚染部会、一都三県公害防止協議会	共同調査	大気第三研究室
	環境大気常時監視マニュアル（改訂版）	環境庁	共同執筆	吉成晴彦
	昭和59年度環境庁委託業務結果報告書：浮遊粒子状物質対策検討調査（粉じん発生施設発生源単位等調査）	（財）日本環境衛生センター	共同調査及び共同執筆	飯豊修司
	昭和60年度環境庁委託業務報告書：エアロゾル中の炭素成分分析法の精度等に関する調査	（社）大気汚染研究協会	共同執筆	飯豊修司
	千葉県の地盤沈下と地震	千葉県公害研究所		地盤沈下研究室
	高圧ガス設備の耐震性、点検指針	千葉県商工労働部	共同執筆	榆井久、楠田隆、香村一夫
	沖積層分布状況調査報告書（1）資料編	関東地方公害対策推進本部	共同調査	榆井久、古野邦雄
	常時微動による環境地質区分図について（その1、京葉臨海地域）	千葉県公害研究所		地盤沈下研究室
	昭和59年度新東京国際空港周辺航空機騒音実態調査結果報告書	千葉県環境部	共同調査	騒音振動研究室

昭和60年度千葉県公害研究所学会発表及び研究論文一覧

(1) 学会及び講演会等の発表者とその演題

年月	演題	発表者(共同研究者)	学会又は主催団体	備考
60. 4	公害振動と地質条件	樋口茂生、石井皓、水上雅義、岡部隆男	日本地質学会第92年学術大会	山 口 県
5	埋立地における常時微動について	香村一夫、榆井久	物理探査学会	東 京 都
8	発生源ダストのカーボン分析及び熱性特性	飯豊修司	第3回エアロゾル研究協議会	東 京 都
9	地質条件による振動伝搬特性のちがい—交通振動を例として—	樋口茂生、岡部隆男、石井皓	日本騒音制御工学会昭和60年度技術発表会	東 京 都
9	室内プールの音響改善	古谷幸一 ¹⁾ 、松島貢 ¹⁾ 、金子吉昭 ¹⁾ 、川島高嗣 ¹⁾ 、樋口茂生、岡部隆男、石井皓 (¹⁾ 千葉市)	同上	同 上
9	高架式鉄道騒音の伝搬特性	大瀧晴夫 ¹⁾ 、岩佐善規 ¹⁾ 、嶋勝司 ¹⁾ 、相川純一 ¹⁾ 、榎本真一 ¹⁾ 、樋口茂生、岡部隆男、石井皓 (¹⁾ 市川市)	同上	同 上
11	多数被害をともなった1984年7月4、5日の光化学スモッグについて	菊地立	第26回大気汚染学会	東 京 都
11	東京湾を中心とする気流・汚染物質調査	菊地立、宇野博美、岡崎淳、伊藤道生 ¹⁾ (¹⁾ 千葉県水質保全研究所)	同上	同 上
11	深冷却捕集法を用いた大気中 Peroxyacetyl Nitrate(PNA)の測定	中西基晴、松浦章良、渡辺征夫 ¹⁾ (¹⁾ 国立公衆衛生院)	同上	同 上

年月	演題	発表者(共同研究者)	学会又は主催団体	備考
11	道路近傍における大型ディーゼル車からの粒子状物質調査	内藤季和、飯豊修司、依田彦太郎、水上雅義、鈴木将夫、松浦章良、宇野博美	第26回大気汚染学会	東京都
11	固定発生源から排出されるエアロゾル	飯豊修司	同上	同上
11	千葉県の浮遊粒子状物質の発生源の推定(IV)	依田彦太郎、内藤季和、飯豊修司、鈴木将夫、松浦章良、宇野博美、水上雅義	同上	同上
11	南関東における大気エアロゾルのキャラクタリゼーション(第2報)	茅住邦雄 ¹⁾ 、朝来野国彦 ¹⁾ 、依田彦太郎、水上雅義 (¹⁾ 東京都環境科学研究所)	同上	同上
61. 2	大気汚染物質の常時監視測定について	吉成晴彦	君津都市公害担当者会議	木更津市
3	多数の健康被害をともなった1984年7月4、5日の光化学スマッグについて	菊地立、宇野博美、斎藤雄二 ¹⁾ 、内山一郎 (¹⁾ 県大気保全課)	第24回千葉県公衆衛生学会	千葉市
3	新東京国際空港周辺の航空機騒音	石井皓、岡部隆男	同上	同上

(2) 論文及び雑誌投稿

年度	題名	著者	発表誌名
59	コハク酸トラップの二酸化硫黄常時監視測定への適用	吉成晴彦、加来文雄 ¹⁾ (1) 県大気保全課)	千葉県公害研究所研究報告、Vol. 16、No. 2
60	房総半島東岸にみられる上ガス利用について	榎井久、矢田恒晴 ¹⁾ (1) 県 工業課)	第四紀研究、Vol. 24
	気温逆転層形成時の窒素酸化物と浮遊粒子状物質による大気汚染の構造（第4報）－住宅地における窒素酸化物とオゾンの鉛直分布(船橋市高根台地域、千葉市検見川地域)－	菊地立、中西基晴	千葉県公害研究所研究報告、Vol. 17、No. 1
	東京湾の海陸風循環による大気の移流と光化学大気汚染の動態（序報）	菊地立、伊藤道生、宇部博美、 中西基晴、岡崎淳、内山佐智子 ¹⁾ (1) 県大気保全課)	同上
	千葉県における大気中炭化水素成分調査	中西基晴	同上
	室内プールにおける残響時間の測定結果	樋口茂生、岡部隆男、石井皓、 古谷幸一 ¹⁾ 、松井秀道 ¹⁾ 、川島高嗣 ¹⁾ (1) 千葉市環境部)	同上
	衝撃音の測定－動特性の違いによる指示値の比較－	岡部隆男、樋口茂生、石井皓	同上
	新聞資料にみる地下水汚染－関東地下水盆南部－	佐藤賢司、榎井久	同上
	大型ディーゼルトラックが排出する粒子組成の推定	内藤季和、飯豊修司、依田彦太郎、水上雅義、鈴木将夫、 松浦章良、宇野博美	千葉県公害研究所研究報告Vol. 17、No. 2
	モニターによるアサガオのOx様可視被害観察について	岡崎淳、岡部真一 ¹⁾ 、島田吉信 ¹⁾ (1) 県大気保全課)	同上
	三点比較式臭袋法による悪臭の測定	松浦章良、竹内和俊	同上

年度	題名	著者	発表誌名
	粒子物質中のイオン種の構成について の一考察	内藤季和	同上
	室内プールの音響改善	樋口茂生、古谷幸一 ¹⁾ 、松島貢 ¹⁾ 、金子吉昭 ¹⁾ 、川島高嗣 ¹⁾ 、岡部隆男、石井皓 (¹⁾ 千葉市環境部)	同上
	Simple Pumping Test Simulation in Indonesia by using Microcomputer —The Program is due to Nonuniform Grid Spacing and Nonuniform Time Step—	SUYANTO and KUNIO FURUNO	同上
61	Development of Quaternary and Environmental Protection —Status of Underground fluid Resources Use in the Kanto Ground Basin—	HISASHI NIREI and KUNIO FURUNO	Recent Progress and Natural Science Cils of Japan, Vol. 11
	地震時における地波現象と帶水層の液化	榎井久、佐藤賢司、高梨祐司 ¹⁾ 、森範幸 ²⁾ (¹⁾ 県水質保全課、 ²⁾ 秋田大学鉱山学部)	地質学論集第27号
	京葉臨海地域における常時微動による地盤環境区分	香村一夫、榎井久	同上



――時代が求めている、鉄のシェイプアップ――

みんなが、より高い次元で心と身体の美しいバランスを考えはじめた時代。

鉄にとってもシェイプアップは大切なテーマです。

川崎製鉄はいま、ひとつひとつの製品の一層のクオリティアップ。

新しい製品・技術の開発力のアップ。

さらに、設備のフレッシュアップまで。

時代のニーズにこたえた量から質への転換を次々と実現しています。

これがすべての面でバランスのとれた企業体質づくりを目指すアイアン・シェイプアップ。

いつも新しい課題に取り組む川崎製鉄の姿勢です。

人あり、鉄あり、未来あり

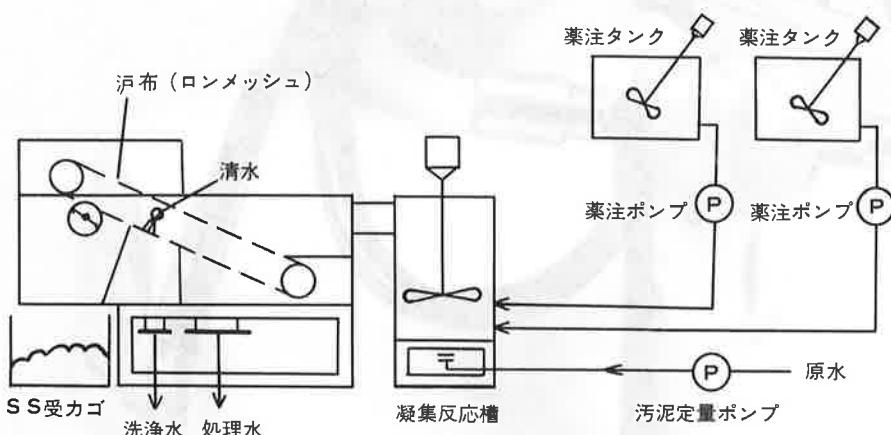
川崎製鉄

薬注による簡便で効果的な水処理

凝集汎過システム

IK フロック スクリーン

難汎過性排水又は、処理水質を向上させるために凝集剤(無機系凝集剤、有機系高分子凝集剤)の単独又は、組合せ使用により薬品凝集をさせ、特殊植毛汎材「ロンメッシュ」を使用して汎過効率並びに、水質の大巾向上を目的とする方式です。



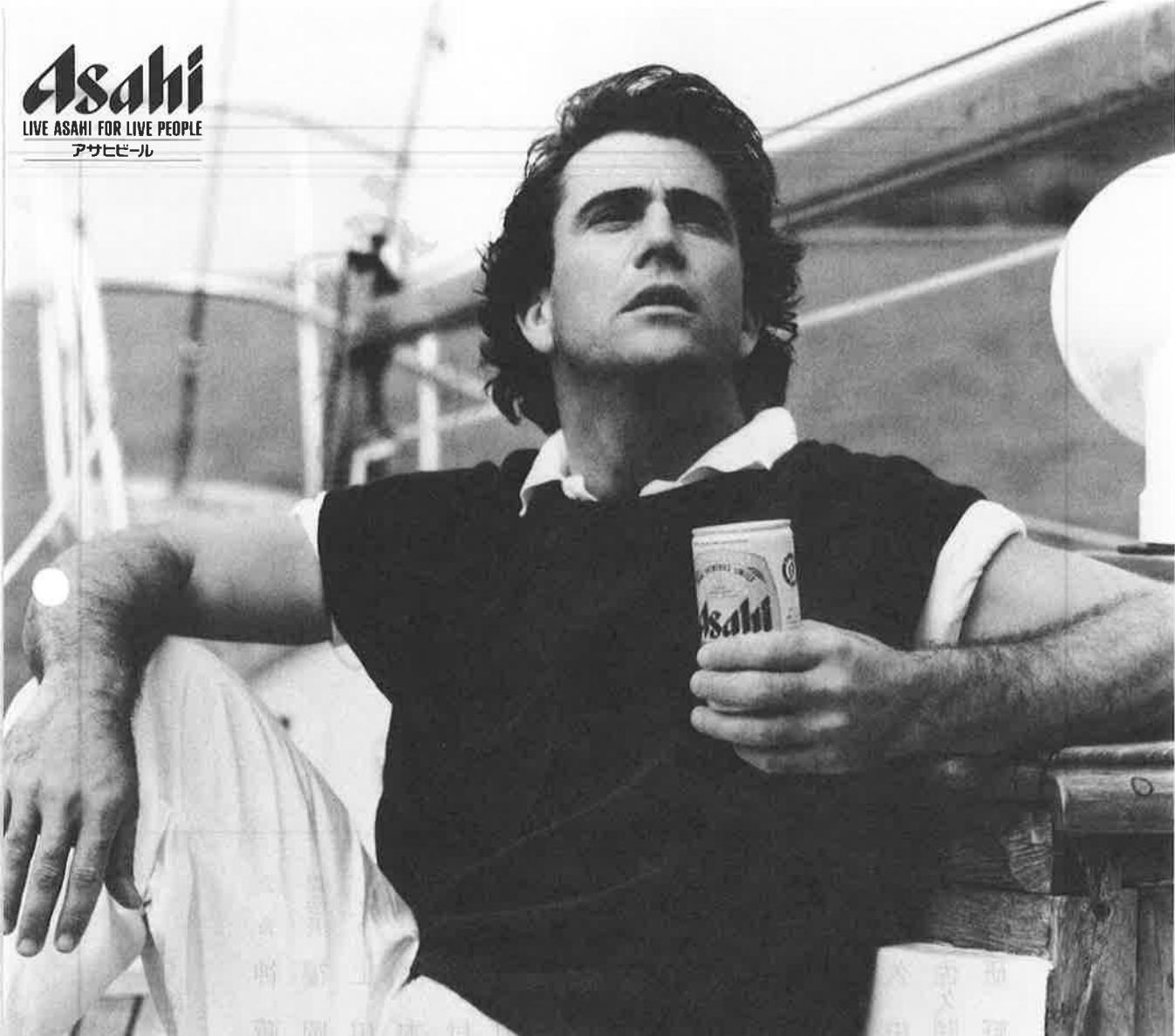
排水の種類	薬注条件	SS原水濃度	処理水
洗米排水	アルミン酸ソーダ 600 硫酸バンド 1000 IK フロック T-530 20	700 ppm	100 ppm
鰆節煮干加工排水	硫酸バンド 5000 IK フロック T-900 50	5000	200
下水浮上スカム	IK フロック T-900 20	5000	400
汚殿槽 キャリーオーバー	IK フロック T-900 10	1500	20
汚泥濃縮 (加圧浮上フロス)	IK フロック T-221 5	1 %	濃縮汚泥 5 %



市川毛織株式会社 工営事業部

千葉県市川市市川南3丁目12番1号

TEL 0473(26)1141 〒272



コクがあるのに、 キレがある。

「あ、コクがあるのに、キレがある。」と、多くのビール通の方にもうなずいていただいた新しいアサヒビール。たっぷりとした味の深み、コク。そしてのどごしの爽やかなキレ味。このふたつのうまさを“両雄並びたせた”秘密は何でしょうか。■先進の技術、100年の経験に基づくことはもちろんですが、こんどのアサヒビールは、何より原料に贅がつくしてあります。たとえばホップは、西ドイツ・ミュンヘン近郊のハラタウ地方

でとれる香りの優れた「ハラタウ・アロマ」を採用。さらに世界各地から厳選して集めた麦芽などをぜいたくに用い、丹念な仕込みで大きなうまさに結晶させているのです。■さあ、ビールの味がさえる候。どうぞ、あなたののどでこのうまさをお確かめください。

ASAHI 生 BEER

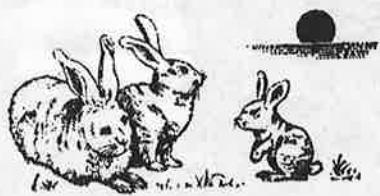


アサヒビール株式会社

※お願いがんのお取扱いはやさしく、日なたや倒れやすいところには置かないでください。

高
中
の
あ
る
じ
に
上
げ
ま
す

昭和六十二年元旦



会長	福藤	高木道生	飯岡彦一	森田健彦	宮島文雄	井口通	坂本英雄	市川久佐	大野雄二	久間雄二	理事
副会長	高木道生	飯岡彦一	森田健彦	宮島文雄	井口通	坂本英雄	市川久佐	大野雄二	久間雄二	理事	福藤
主事	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	監事
係長	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
事務長	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
飯	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
菅	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
畔	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
田	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
谷	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
蒜	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
容	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
政	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
藤	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
子	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
春	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局
樹	福場	刈山	岡玲	原忠二郎	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	田治雄	事務局

《編集後記》

あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、さわやかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は円高による経済環境の変化が産業界へ大きな影響をもたらし、私達の日々の暮らしの中においても、身にしみて感じられた厳しい年がありました。

また、三原山の大噴火や、余部鉄橋での列車の転落事故が国内を驚かしたことはまだ記憶に新しく、まさに激動の1年でありました。

昨年の虎に対して、今年は兎年です。会員の皆様にとって、今年1年が兎にあやかって、穏やかで、平和な年であり、一段と飛躍する年でありますよう祈念します。

川崎製鉄㈱

榎本通

区分	編集委員
36号	川崎製鉄㈱・アサヒビール㈱・市川毛織㈱・千葉県血清研究所

会報 第36号

発行年月 昭和62年1月

発行者 社団法人千葉県公害防止管理者協議会
会長 神藤 賢

千葉市市場町1番3号 自治会館内
電話 0472(24)5827

印刷所 ワタナベ印刷株式会社
千葉市弁天町276 弁天レーザハイム2の104
電話 0472(56)6741

